曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

球宴や侍等湧き花目覚む

池田 安起徒

湧き水の深さ一寸蝌蚪の国

古藤 まゆ美

天日を揺らして蝌蚪の生れてをり

瀬戸内 紀子

大陽俳句会

ランドセル背負ひ登場花見席

鍋山 美智子

身の程の暮らしでよろし桜咲く

逆瀬川 節子

内股で寄り来る家鴨花ミモザ

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

どの星に君は帰るか見極める

すべなき今宵満天の星

宝蔵 弘二

びしぴしと麻酔打たれをり久しぶりの

歯の治療を椅子に固まる

長倉 佳津子

夫の忌に満開となりしひかんざくら緋寒桜

愚直実直に生きております

森岡 ちどり

大陽短歌会

子と摘みて孫とも摘みしつくしんぼ

今日は一人で夕餉の膳に

川辺 敦子

梢うれに生命あずけて眠る鳥たちの

夜は満月の森に抱かれて

広川 ミドリ

妹の汲みたる泉の水音を

夢にききしよ春のお彼岸

竹内 娃子

財部短歌会

とことことてくてくと歩く人あれば

よろよろのろのろ歩くも人生

児玉 次雄

垂水の足湯にまどろむその視野に

とつぜん噴きあぐ桜島山

井上 澄子

冬と春綱引きするがに変化する

寒暖の差に戸惑ふわれは

杉村 リカ

薩摩狂句

ながごい会末吉支部

節句せつの祝ゆえ 爺じが酔よろたや

孫まごが守もい

団子餅だごもちが 無なかや節句せつとな

言いわん婆ばば

胡摩こまケ野

何なにがよかるか

財布さいふを調なつ

孫まごん節句せつ

可愛わいが娘むすめが 桃ももん節句せつん

宮参みやまゐりり

古川 一幹

桐野 奈世

べぶまつ

桐野 奈世

桐野 奈世

桐野 奈世

浜田 一好